

平成23年(2011年)3月31日
山口県病虫害防除所

1 病虫害名 ホウレンソウベと病レース8
(病原菌：ホウレンソウベと病菌 (*Peronospora effusa* (Greville) Cesati(race8))

2 特殊報の内容 新発生

3 発生経過

(1) 発生確認月日：平成22年12月7日

(2) 発生地域：美祢市、阿武町

(3) 発生状況：

美祢市及び阿武町の施設栽培のホウレンソウほ場において、べと病レース(注1) 1～7に抵抗性の品種(トラッド7等)にべと病が発生した。独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所野菜IPM研究チームにレース検定を依頼したところ、本県では未確認のレース8であることが確認された。

(4) 他県での発生状況

平成22年5月に奈良県、11月に徳島県、12月に岐阜県、平成23年3月に福岡県でべと病レース1～7の抵抗性品種でべと病の発生が報告され、そのうち徳島県、岐阜県で発生したべと病はレース8であることが確認されている。

4 本病の特徴

(1) 病徴

下葉の表面に健全部との境界がはっきりしない黄白色の小さな病斑ができる。病斑は次第に拡大して淡黄色、または淡紅色の不正円形となり、被害が進むと葉の大部分が淡黄色になる。葉の裏側には灰色でビロード状のかびが形成される(写真)。激発すると葉の一部または全部が黄白色になり、やがて枯死する。

(2) 伝染経路

ア 一次伝染源は種子や被害残渣内に形成される卵胞子である。

イ 葉の裏面に生じる分生子が風によって飛散し、二次伝染する。

(3) 宿主範囲

本病原菌の宿主範囲はホウレンソウのみである。



葉表



葉裏

写真 べと病の病徴

5 防除対策

(1) 耕種的防除

- ア 本病レース1～8に抵抗性を有する品種を使用する(表)。
- イ 葉をぬらすと発病を促すので、頭上配管による灌水を避ける。
- ウ ほ場の排水や通風、採光を良好にする。
- エ 発病株をほ場に放置したり鋤込むと次作の伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

(2) 薬剤防除

- ア 土壌伝染を防ぐため、萎凋病や立枯病などとの防除を兼ねて土壌消毒をする。
- イ 発生してからの防除は困難なため、発生前から薬剤散布を行い予防する。薬剤は県農作物病虫害・雑草防除指導基準を参照し、適正に使用する。

表 ホウレンソウベと病レース8に抵抗性を有する主な品種

品 種 名	レース抵抗性 ※
夏用味サラダほうれんそう	R 1～9
赤茎味サラダほうれんそう	R 1～10
早生スイング	R 1～10
パッカー10法蓮草	R 1～10
黒葉スイング	R 1～10
トリトン	R 1～8
サマースカイR7	R 1～8
デュエル	R 1～8

※ 各種苗会社からの情報による

(注1) レース：

ホウレンソウベと病菌には、ホウレンソウの品種に対する病原性を異にする系統がある。この系統を一般的にレースと呼ぶ。